

この教材の使い方

教材の特徴

日本の生活場面で「できる」ことを増やします

『いづろり 生活の日本語』は、日本で生活する人のための日本語教材です。日本で働いたり、買い物をしたり、遊びに行ったり、食事をしたり、ほかの人と交流したりなど、日本の生活のさまざまな場面で必要となる日本語を学びます。

この教材では、日本での生活の中で、日本語を使って実際の場面で「できる」ことを増やすことを学習目標にしています。この「どんな場面で何ができるか」を、「Can-do」と呼びます。Can-doを目標とした学習により、日本での生活に必要なコミュニケーション力を身につけることを目指します。

A1～A2レベルの日本語を身につけます

『いづろり』は、「入門」「初級1」「初級2」の3部からできています。「入門」は、「JF日本語教育スタンダード」*のA1レベル、「初級1」「初級2」はA2レベルにあたります。A1は、あいさつをしたり、覚えた表現を使ってごく簡単なコミュニケーションをしたりすることができるレベル、A2は、身近な話題なら、短い基本的な日常会話ができるレベルです。

* JF日本語教育スタンダードは、日本語のレベルをA1～C2の6段階で表しています。これは、欧州評議会CEFRのレベルと共通です。

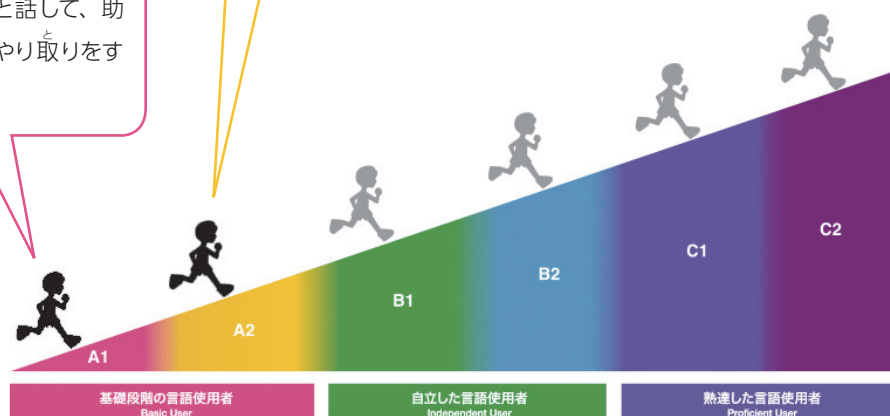
A1レベル

- 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
- 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
- もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

JF日本語教育スタンダード [新版]
利用者のためのガイドブック

A2レベル

- ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。
- 簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。
- 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。



「JF 生活日本語 Can-do」にもとづいています

国際交流基金は、「JF 生活日本語 Can-do」を2019年に発表しました。これは、「特定技能」の資格等で来日した日本語を母語としない外国人が、日本での生活場面で求められる基礎的な日本語コミュニケーション力を、Can-doで記述したものです。『いろどり』は、この「JF 生活日本語 Can-do」にもとづいて学習目標を設定していますので、この教材で勉強すれば、日本での生活で必要となる基礎的なコミュニケーション力を身につけることができます。そのため、この資格での来日を指す人の来日前の学習や、この能力を測る「国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic)」のための準備としても使うことができます。

豊富な音声やレリア (実物教材) を使って、実践的な日本語を学びます

『いろどり』では、音声のインプットを重視しています。日本語が実際の場面で使えるようになるためには、たくさんの日本語を聞くことが大切だからです。そのため、音声ファイルを豊富に用意してあります。また、読みだり書いたりするための素材には、日本の生活で実際に使われているもの (レリア) や、それを再現したものを使っていきますので、日本での実際の場面に近い状況で、日本語を練習できます。以上を通じて、すぐに使える実践的な日本語を学ぶことができます。

生活に密着したさまざまなトピックがあります

『いろどり』は、トピックにもとづいて構成されています。それぞれの課では、日本での生活に関連するさまざまなトピックが取り上げられています。日本語という言語を学ぶだけでなく、日本の生活や文化にも触れられるよう、日本の日常生活や日本事情に関係するさまざまなことごとを題材として積極的に取り上げています。また、日本の生活に役立つコーナーもあります。

文法や漢字などの言語知識もしっかり学べます

この教材の目標は、実際のコミュニケーションにおいて日本語が使えるようになることなので、文法、語彙、漢字などを覚えること自体が目標ではありません。しかし、こうした要素は、Can-doを達成するために必要な要素として、文脈のあるコミュニケーションの中で、しっかり学べるようになっていきます。一般の初級の日本語教材で扱われている文法、語彙、漢字の多くは、『いろどり』にも入っています。

ウェブサイトから自由にダウンロードできます

『いろどり』は、ウェブサイト上で提供しますので、世界のどこからでも、自由にダウンロードすることができます。本冊はPDFファイルとして提供されますので、印刷して使うこともできますし、タブレットやスマホに入れて見ることもできます。音声は、サイトからダウンロードして聞くほか、ストリーミングでの再生にも対応しています。

『まるごと』と緩やかに関連づけられています

『いろどり』のトピックや、各課で扱われる文法項目は、国際交流基金が制作した海外の学習者のための日本語コースブック『まるごと 日本のことばと文化』と、緩やかに関連しています。そのため、『いろどり』と『まるごと』を併用して使ったり、『いろどり』の学習の補助として『まるごと』の一部を使ったり、『まるごと+ (まるごとプラス)』など『まるごと』のウェブサイト『いろどり』の学習に使ったりすることができます。

コミュニケーションと文化理解を通じて、人と人との相互理解を目指します

『いろどり』を使った学習が最終的に目指すものは、人と人との「相互理解」です。これは、『いろどり』のもとになった、JF 日本語教育スタンダードの基本理念でもあります。『いろどり』を使って身につけた日本語でのコミュニケーションと文化理解を通じて、日本で新たに生活を始める人と、すでに日本に住んでいる人とが、お互いに自己を表現し、よく知り合い、交流していくことが、「相互理解」につながります。

きょうざい こうせい 教材の構成

『いるどり』は、「入門 (A1)」「初級 1 (A2)」「初級 2 (A2)」の3部からできています。それぞれの教材には、以下のものがあります。

ほん さつ (PDF)

ひょうし
表紙

はじめに (日本語・英語) この教材の使い方 (日本語・英語)

ないよういちらん (日本語・英語)
内容一覧

だい 1 課 ~ だい 18 課
第1課 ~ 第18課

かつどう 活動	ちようかい 聴解 スクリプト	かんじ 漢字の ことば	ぶんぽう 文法 ノート	にほん 日本の せいかつ 生活 TIPS
------------	----------------------	-------------------	-------------------	-------------------------------

Can-do チェック

おくづけ
奥付

おんせい 音声ファイル (MP3)

だい 1 課 ~ だい 18 課
第1課 ~ 第18課

ふぞくきょうざい しりょう※ 付属教材・資料

かいとう 解答	ごいひょう 語彙表	おし かた てび 教え方の手引き
その他		

※ 付属教材・資料は、順次公開予定です。

1 各課の構成

「入門」「初級1」「初級2」は、それぞれが9つのトピック、18課から構成されています。1課あたりの授業時間の目安は、150～180分です。ただし、課によって活動の数が違うので、それに合わせて、授業時間数を調整してください。

各課の構成は、次のとおりです。

● トピックと課のタイトル

● 導入の質問

その課で取り上げるテーマについて、具体的にイメージするための質問です。自分の経験を振り返ったり、クラスで話し合ったりします。

● 活動

Can-doを達成するための活動で、この教材の中心となる部分です。各課に3～6の活動があります。この活動を行うことによって実際に使える日本語が身につきます。

● 聴解スクリプト

● 漢字のことは

活動の中に出てきた漢字のことはを勉強します。(「入門」の第1課ではひらがなを、第2課ではカタカナを勉強します。)

● 文法ノート

各課で勉強する文型や表現についての説明です。(「入門」の第1課、第2課にはありません。)

● 日本の生活 TIPS





活動の中に出てきた日本文化や日本事情についての説明です。



2 活動内容と進め方

(1) 活動の種類と目標

各課には、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4種類の活動があります。各活動は、それぞれ独立していますが、ひとつの課の中で緩やかに関係しています。課によって、活動の数や種類、またその配列が異なりますが、全体としては、話す活動が多いです。4種類の活動の全体的な目標は、次のとおりです。

	話す 身近な場面で質問したり質問に答えたり、自分のことや身近なことについて簡単に説明したりできるようにすることが目標です。
	日常生活の中で、相手の話から大切な内容を理解したり、簡単なニュースや公共のアナウンスなどを聞いて、必要な情報を聞き取ったりできるようにすることが目標です。
	日常生活の中でよく目にするお知らせや公共施設の掲示、飲食店のメニューなどから必要な情報を読み取ったり、外国人向けのやさしい日本語で書かれたパンフレットなどを読んで、内容を理解したりすることが目標です。
	日常生活で必要なフォームに記入したり、友人などにメッセージを送ったり、身近なできごとについて簡単にSNSに書いて発信できるようにすることが目標です。

(2) すべての活動に共通する進め方

それぞれの活動は、次のような手順で行います。

1 Can-doの確認

その活動のCan-doを見て、できるようになることを確認します。

2 活動

「話す」「聞く」「読む」「書く」の活動を行います。

3 Can-doチェック

巻末のCan-doチェックを使って、Can-doが達成できたかどうかを自己評価します。そのCan-doをどのくらい達成できたと思うか、学習者1人1人が自分でチェックします。コメント欄には、活動の感想やこれからやってみたいことなどを、自由に記入します。Can-doチェックは、ひとつの活動が終わるごとに書いても、その課の学習が終わったときにまとめて記入してもいいです。



第1課 レストランで働いています I work in a restaurant.		評価
活動・Can-do Activities & Can-do		Self-evaluation
1.  お久しぶりです		
Can-do 01	久しぶりに会った人とあいさつをすることができる。 Can exchange greetings with a person you are meeting for the first time in a long time.	☆☆☆

初級1 Can-doチェック-1 ©The Japan Foundation

はな き よ か かつどう すす かた
 (3) 「話す」「聞く」「読む」「書く」活動の進め方

はな かつどう
 話す活動

1 Can-doの確認

2 ことばの準備

活動に必要なことばを勉強します。
 活動によって、ある場合とない場合がありますが、次のような手順で進めます。

1. イラストを見ながら音声を聞いて、意味を確認する

2. 音声を聞いて、まねて言うしてみる
 発音を確かめることが目的で、覚えることが目的ではありません。

3. 音声を聞いて、内容に合うイラストを選ぶ
 聞いて意味がすぐにわかるかどうか確かめます。意味と形を結びつけられるようになることが目的です。

3 会話例を聞く

活動の到達目標 (Can-do) は「話す」ことですが、まず、Can-doを達成するための会話例を聞いて、会話の内容をだいたい理解します。この段階では、文法や表現について詳細に理解する必要はありません。

会話例には、活動によって、「いくつかの異なる場面で、比較的短い会話をいくつか聞く場合」と「ひとつの場面で、比較的長い会話を聞く場合」があります。原則として、前者の場合は、スクリプトが本文にはなく、後ろに「聴解スクリプト」としてついています。後者の場合は、スクリプトが本文に書いてあります。それぞれの進め方は、次のとおりです。

● 会話スクリプトが本文にない場合

1. 聞く前に、どんな場面でどんなことについて話しているのかを確認する
2. 会話を聞いて、質問に答えながら、大切な内容を理解する
3. の中の新しいことばや表現の意味を確認してから、もう一度聞いて、少しくわしく内容を理解する

● 会話スクリプトが本文にある場合

1. 聞く前に、どんな場面で、誰と誰が話しているかを確認する
2. スクリプトを見ないで聞いて、質問に答えながら、だいたいの内容を理解する
3. スクリプトを見ながら聞いて、よりくわしい内容を理解する。
 このとき、 の中の新しいことばや表現の意味もいっしょに確認する

9-1 田舎に帰る、何をしますか？

3. 田舎に帰って家族でお祝いします

40 家族の集まりや行事について、簡単に話すことができます。
 Can talk simply about family and events in their country.

1

2 ことばの準備
 (聞きや読みをする)

a. 田舎に帰る b. 飾りを作る c. 特別に料理を食べる d. パーティーをする

e. 買ったものを売る f. 旅行に行く g. プレゼントやお金をあげる

(1) 絵を見ながら聞きましょう。(▶ 38:31)
 Listen while looking at the illustrations.

(2) 聞いて真似しましょう。(▶ 38:32)
 Listen and repeat the words.

(3) 聞いて、a-gから選びましょう。(▶ 38:33)
 Listen and select from a-g.

初級2 L9-8 ©The Japan Foundation

9-2 田舎に帰る、何をしますか？

3 会話を聞きましょう。
 Listen to the dialog.

4つの国(イタリヤ、フランス、ドイツ、アメリカ)の、自分の国の祭りについて話しています。
 The four people are in a class. Each of the International Exchange Association. They are talking about festivals in their countries.

(1) どんな祭りですか？
 What kind of festival?

1. どんな祭りですか、a-dから選びましょう。
 What festival festival? Choose from a-d.

a. 海開きの祭り b. 田圃の正月 c. キリスト教の祭り d. まつり祭り

2. いつ開きますか、ア、エから選びましょう。
 When are the festivals celebrated? Choose from P-E.

ア 4月 イ 9月〜2月 ウ 2月ごろ エ 年によって違う

1. どんな祭り?	① 海開き (▶ 38:31)	② フランカーン (▶ 38:31)	③ 聖誕祭 (▶ 38:32)	④ クリスマス (▶ 38:33)
2. いつ?				

(2) 何を食べているんですか、a-eから選びましょう。
 What is done at the festival? Choose from a-e.

a. 海開きに行く b. パーティーをする c. 祭り料理を食べる d. 田圃に帰る e. ぎやまをあげる

2. 何を食べているんですか、ア、エから選びましょう。何を食べていないときは、F-J を書きましょう。
 What is eaten? Choose from F-J. Write - if it is not mentioned.

ア フライドポテト イ 餃子 ウ 餅の丸焼き エ ツッキー

1. 何を食べているんですか?	① 海開き (▶ 38:31)	② フランカーン (▶ 38:31)	③ 聖誕祭 (▶ 38:32)	④ クリスマス (▶ 38:33)
2. 何を食べているんですか?				

初級2 L9-9 ©The Japan Foundation

4 形に注目

Can-do の達成に必要な文型や表現を勉強します。

1. 文型や表現に注目する

会話例の中で、注目してほしい文型や表現の部分に下線を引いて空所にしてあります。

音声を入れて空所にことばを書き入れ、どう言っていたのか、形（言語形式）に注目します。

2. 文型や表現の意味・使い方を考える

文型や表現の意味や使い方を考えるための質問に答えます。教師が先に文法の説明をするのではなく、まず学習者が自分自身で考え、日本語のルールを発見します。

→ そのあとで、「文法ノート」の例文や説明を読んで、確認します。

3. 形に注目して、もう一度会話例を聞く

ここで勉強した文型や表現が会話の中でどのように使われていたのか、会話例をもう一度聞いて、確認します。

4 形に注目

(3) ことばを確認して、もう一度聞きましょう。

(1) 音声を聞いて、ことばを書きましよう。

(2) 形に注目して、①・③の余韻をもういちど聞きましょう。

Can-do

初級2 L9-10 ©The Japan Foundation

5 話す

この活動の到達目標（Can-do）となる部分です。少しずつ、段階的に練習します。

1. モデル会話を聞く

Can-do を達成するための会話のモデルである「吹き出し会話」を見ながら、音声を聞いて、談話の流れや表現を確認します。

2. シャドーイングする

なめらかに話せるようになるための練習です。はじめは「吹き出し会話」を見ながら、シャドーイングします。何回か繰り返し、最後は「吹き出し会話」を見ないでシャドーイングします。

3. 練習する

次の「4. 自由に話す」の準備です。ある場合とない場合があります。「吹き出し会話」のことばを入れ替えたり、③の会話例の内容を使って話したりします。

4. 自由に話す

自分のことについて自由に話したり、ロールプレイをしたりします。「吹き出し会話」のことばを入れ替えるだけでなく、言いたいことについて自由に話します。必要なことばは、辞書やスマホなどを使って調べましよう。

5 話す

(1) 会話を聞きましょう。

(2) シャドーイングしましょう。

(3) 辞書の活用で、練習しましょう。

(4) 自分の国の祭りや行事について、話しましょう。

Can-do

初級2 L9-11 ©The Japan Foundation

6 Can-do チェック

シャドーイングとは？

「シャドーイング」とは、聞いた日本語を、すぐそのまま、まねして自分で言う練習法です。いったん音を全部聞いてからリピートするのではなく、音が聞こえてきたら、その音のすぐあとに影 (shadow) のように続いて、小さい声で発音します。

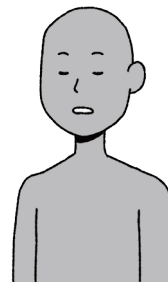


おんがくをきくことです。

おんがくをきくことです。

あと、ゲームをするのが好きです。

あと、ゲームをするのが好きです。

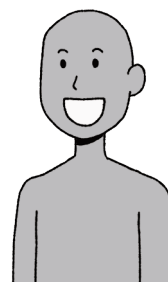


おんがくを
きくことです。

おんがくを
きくことです。

あと、ゲームを
するのが好きです。

あと、ゲームを
するのが好きです。



活動の進め方は「話す」と似ていますが、到達目標 (Can-do) が聞いて理解することなので、聞いて必要なことが理解できれば目標達成です。

1 Can-do の確認

2 ことばの準備

聞く前に、知っておいたほうが良いことばを勉強します。活動によって、ある場合とない場合があります。

進め方は「話す」活動の場合と同じです。

3 聞く

この活動の到達目標 (Can-do) となる部分です。

1. 設定を確認する

聞く前に、イラストなどを見ながら、どんな場面で、何のために、何を聞くのかを確認します。

2. 内容を段階的に理解する

質問に答えながら、大切な内容を理解します。「内容に合ったイラストを選ぶ」「キーワードを選ぶ」「要点をメモする」「O×をつける」など、活動によっていろいろな練習があります。聞いたことがすべてわかる必要はありません。質問に答えることができれば Can-do 達成です。

3. ことばを確認してもう一度聞く

少しくわしい内容について聞き取るための、発展的な活動です。□の中の新しいことばや表現の意味を確認してから、もう一度聞きます。少し難しいことばもあるので、すべてを覚える必要はありません。

→さらにわからない点を確認したいときは、後ろの聴解スクリプトを見るといいでしょう。

4 形に注目

聞いて理解したことの中から新しい文型や表現に注目して勉強します。進め方は、「話す」活動の場合と同じです。ただし、新しい文型や表現がない場合は、このコーナーはありません。

5 Can-do チェック

トピック 季節と気候 初級 1

3 冬はともとも寒くなります

あなたはどの国に住みますか?
What are the seasons like in your country?

1 春は桜の花が咲きます

日本の四季について短い動画を見て、季節の特徴を理解することができます。
Learn about Japan's four seasons by watching short videos about each season.

ことばの準備

季節のことば

a. 暑い b. 涼しい c. 寒い d. 暖かい e. じれじれする / 暑しい

f. 雨が降る g. 雪が降る h. 桜の花が咲く i. 山に桜が咲いた j. せせこましい

(1) 音を聞きながら読みましょう。 (2) 聞いて選べます。 (3) 聞いて、a-j から読みましょう。

初級 1 L3 - 1 ©The Japan Foundation

3 音声を聞きましょう。

日本から紹介する季節を見ています。
You are watching a video that introduces Japan.

日本の季節の特徴を、a-j から読みましょう。

春 () 梅雨 ()
夏 () 秋 ()
冬 ()

(1) ことばを確認して、正しいものを選べます。 (2) ことばを確認して、正しいものを選べます。

たくさん many / much | 学校 school

初級 1 L3 - 2 ©The Japan Foundation

4 形に注目

(1) 音声を聞いて、□にことばを書き込みましょう。

春は桜の花が咲きます。早く□。
夏は暑いので、学校が休み□。
秋はすずしく□。

(2) 形に注目して、音声をもういちど聞きましょう。

1 Can-do の確認

2 よ 読む

この活動の到達目標 (Can-do) となる部分です。

1. 設定を確認する

読む前に、どんな場面で、何のために、何を読むのかを確認します。

2. 内容を段階的に理解する

質問に答えながら、必要な内容を理解します。最初に、「何について書いてあるのか」「必要な情報はどこに書いてあるか」など、概要を把握してから、ややくわしい情報を読み取ります。全部がわからなくても、質問に答えることができれば Can-do 達成です。

日本の生活で実際に目にするものには、ルビ(ふりがな)がないものが一般的です。そのため、読む素材にも、実際にルビがないものにはルビをつけていません。実際の日本の生活で読む場合は、知らないことばや読み方がわからない漢字がたくさんあるでしょう。日本での生活を想定して、はじめは、「大切なことば」にある単語の意味を確認したり辞書等を使ってわからないことばを調べたりせずに、わかることばや写真、イラストなどを手がかりにして、推測しながら読むようにしましょう。

「大切なことば」を確認する

「大切なことば」は、読んだ素材の中で、覚えておいたほうがいいことばや、日本で生活する上で知っておいたほうがいいことばを中心に選んであります。はじめに自分の力だけで読んだあと、「大切なことば」の意味を確認したり、漢字の読みや知らないことばを辞書等で調べたりします。そのあとで、もう一度、読んでみるといいでしょう。

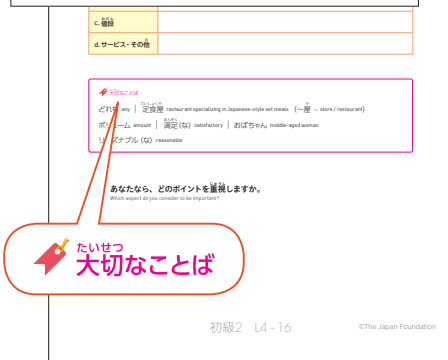
3. 読んだ内容について、理解を深める

質問に答えて、自分の経験を振り返ったり、自分の国の場合と比べたりして、理解を深めます。クラスでの話し合いは、媒介語を使ってかまいません。活動によって、ある場合とない場合があります。

3 形に注目

読んだ素材に含まれている文型や表現の中から、知っておいたほうがいいものを取り上げています。進め方は、「話す」「聞く」活動の場合と同じです。ただし、「読む」の場合は、音声がありません。文章を見ながら下線の空所にことばを入れます。活動によって、ある場合とない場合があります。

4 Can-do チェック



大切なことば



① Can-do の確認

② 書く

1. 設定を確認する

書く前に、どんな場面で、何のために、何を書くのかを確認します。

2. 例を読む

例がある場合は、例を読んで、どんなことを書けばいいかを具体的にイメージします。直前にある読む活動がモデル(例)になる場合もあります。

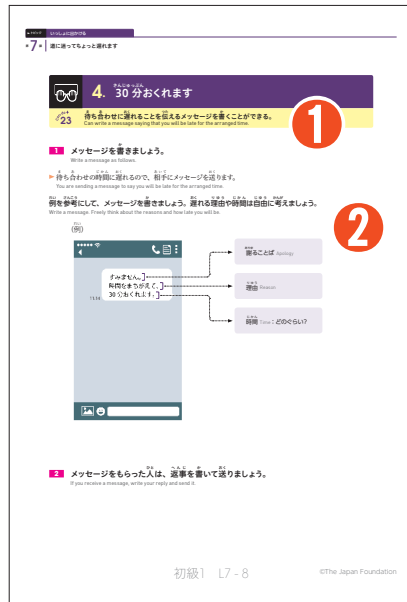
3. 書く

実際に書くときは、フォームに記入する場合のように手書きで行うものもあれば、メッセージを送る場合のようにスマホやキーボードで入力するものもあります。メッセージや SNS は、できるだけスマホやキーボードで実際に入力して、送信したり投稿したりしてみるといいでしょう。

4. 書いたものについて、フィードバックをもらう

書いたものをクラスで読み合って、コメントをしたり、返信したりします。読み手の立場からのフィードバックをもらうことで、「書く」活動を読み手を意識した実際のコミュニケーション活動へとつなげます。活動によって、ある場合とない場合があります。

③ Can-do チェック



3 そのほかのコーナーの内容と進め方

1 漢字のこぼ

初級レベルの漢字を、こぼの中で練習するコーナーです。日常生活において、必要な漢字の意味が見てわかり、また必要な場合には、スマホやPCで漢字が入力できるようになることが目標です。

各課では、活動の中に出てきたことばの中から、漢字のことばを10程度取り上げます(「入門」「初級1」「初級2」で勉強する漢字は、合計で429字です)。次の手順で進めます。

1 読み方と意味を確認する

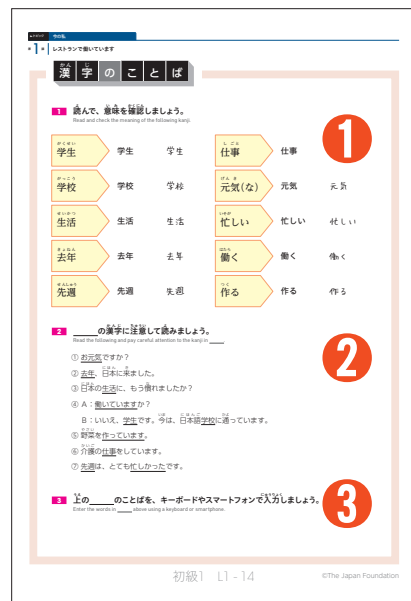
漢字の読み方に注目しながら、ことばの意味を確認します。漢字は、3種類の字体で書かれています。いろいろな字体に慣れてもらうためです。

2 文の中で読む

漢字のことばが含まれている文を読んで、読めるか、意味がわかるかを確認します。

3 入力する

最後に、学んだ漢字のことばを、自分のスマホやタブレット、キーボードなどで入力して、漢字が正しく入力できることを確認します。ここでは漢字を手書きできるようになることは求めていませんが、漢字に興味のある学習者が、手書きも練習したいという場合は、自由にさせてください。



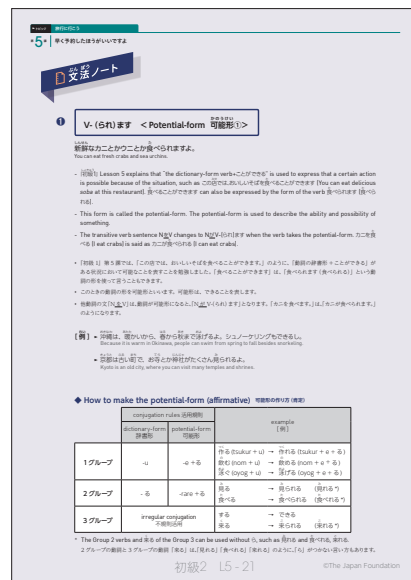
なお、「入門」の第1課と第2課には、「漢字のことば」に代えて「ひらがなのことば」「カタカナのことば」があります。

ぶんぼう 文法ノート

各課で勉強する文型や表現についての説明です。各活動の「形に注目」の文型や表現が取り上げられています。説明を読めば、「形に注目」の質問の答えがわかるようになっています。

各課で取り上げられている項目ごとに、形(言語形式)とその意味、その課のどんな場面で使われているかが説明してあります。また、この教材の活動では扱われていない使い方などの発展的な情報、追加の例文があります。必要に応じて、活用形などをまとめた表、類似表現の比較などもあり、文法の知識が整理できるようになっています。

授業では、活動の「形に注目」で、文型や表現の使い方について学習者が自分で考えたあと、このコーナーの説明を読んでもいいですし、このコーナーを使って教師が説明してもいいでしょう。また、授業では、簡単に触れるだ



けにして、説明は宿題として各自が読むというやり方にもできます。

なお、この教材には、文法の定着を目的とした練習はありません。必要に応じて、『まるごと』の「りかい」など、ほかの教材を使って補ってください。ただし、文法の練習が、目標となる Can-do とまったくかけ離れた練習にはならないよう、目標となる Can-do を意識した練習をしましょう。

このコーナーの説明は、英語（または媒介語）で読むことが前提となっています。日本語は教師の参考用ですので、学習者がここの日本語を読んで理解する必要はありません。

このコーナーでは、品詞などを表すときに、次のような記号を使っています。

N	……	名詞
ナA	……	ナ形容詞
イA	……	イ形容詞
V	……	動詞
S	……	文

「V-る」は動詞の辞書形を表します。「読む」「行く」のように「る」で終わらない動詞も含まれています。

日本の生活 TIPS

日本の生活に役に立つ知識を、コラムとしてまとめています。写真やイラストを豊富に使いながら、楽しく日本の生活や日本文化についての知識が得られるようになっています。

各課の項目は、本文で扱われているものの中から、日本に行ったことがない学習者にとって説明があったほうが良いと考えられるものを中心に取り上げています。また、それ以外にも、日本で生活する上で知っておく役に立つ参考情報も載せてあります。活動のあとで、自分で読んだり、クラスで扱ったりするといいでしょ。また、活動を進める上で、説明が必要な項目が出てきたときに、このコーナーを参照することもできます。

なお、このコーナーも「文法ノート」と同様に、英語（または媒介語）で読むことが前提となっています。日本語は教師の参考用ですので、学習者がここの日本語を読んで理解する必要はありません。

The image shows a page from a Japanese life tips section. It has a green header with the title '日本の生活 TIPS'. There are two main sections: 'バーベキュー Barbecue' and 'スーパーの惣菜コーナー Cooked dishes in supermarkets'. Each section includes an image, a short paragraph in English, and a list of bullet points in Japanese. The page is numbered '初級1 L11-20' and has the logo of 'The Japan Foundation' in the bottom right corner.

របៀបប្រើប្រាស់សៀវភៅនេះ

លក្ខណៈពិសេសរបស់សៀវភៅ

■ **អ៊ីវ៉ូដូរី នឹងជួយបង្កើន "សមត្ថភាពអាចធ្វើបាន" របស់អ្នកក្នុងជីវភាពប្រចាំថ្ងៃនៅប្រទេសជប៉ុន។**
 "អ៊ីវ៉ូដូរី ភាសាជប៉ុនសម្រាប់ជីវភាពរស់នៅ" គឺជាសៀវភៅសិក្សាភាសាជប៉ុនសម្រាប់អ្នកដែលកំពុងរស់នៅ និងអ្នកដែលមាន
 បំណងទៅរស់នៅក្នុងប្រទេសជប៉ុន។ អ្នកអាចរៀនភាសាជប៉ុនដែលចាំបាច់ក្នុងស្ថានភាពជីវិតប្រចាំថ្ងៃដូចជា ធ្វើការងារ ដើរទិញ
 អីវ៉ាន់ ដើរកម្សាន្ត ញ៉ាំអាហារ និងប្រាស្រ័យទាក់ទងជាមួយអ្នកដទៃ។

គោលដៅនៃការសិក្សាសៀវភៅនេះ គឺបង្កើនសមត្ថភាពប្រើប្រាស់ភាសាជប៉ុនរបស់អ្នកតាមស្ថានភាពផ្សេងៗ ក្នុងជីវភាព
 ប្រចាំថ្ងៃនៅប្រទេសជប៉ុន។ សមត្ថភាពដែលអ្នក "អាចធ្វើអ្វីបានខ្លះក្នុងស្ថានភាពណាមួយ" នេះហៅថាសមត្ថភាព Can-do។
 តាមរយៈការសិក្សាដោយយក Can-do ជាគោល សៀវភៅនេះនឹងជួយឱ្យអ្នកសិក្សាទទួលបាននូវជំនាញទំនាក់ទំនង
 ដែលចាំបាច់សម្រាប់ជីវភាពរស់នៅប្រទេសជប៉ុន។

■ អ៊ីវ៉ូដូរី នឹងផ្តល់ឱ្យអ្នកនូវសមត្ថភាពភាសាជប៉ុនកម្រិត A1 / A2 ។

សៀវភៅ អ៊ីវ៉ូដូរី មាន 3 ក្បាលគឺ ភាគដំបូង *1 ភាគ១ និងភាគ២។ ឆ្លើយតបទៅនឹងស្តង់ដារអប់រំភាសាជប៉ុន JF ភាគដំបូង
 ស្មើនឹងកម្រិត A1 *2 ហើយភាគ១និងភាគ២ស្មើនឹងកម្រិត A2។ កម្រិត A1 ជាកម្រិតដែលអ្នកអាចធ្វើការរកិច្ចដោយប្រើពាក្យ
 ងាយៗ សម្រាប់ប្រាស្រ័យទាក់ទងបាន។ ឯកម្រិត A2 វិញ អ្នកអាចធ្វើការសន្ទនាពីប្រធានបទប្រចាំថ្ងៃជុំវិញខ្លួនខ្លីៗបាន។

* 1 ភាគដំបូងមានគម្រោងចេញផ្សាយនៅរដូវស្លឹកឈើជ្រុះឆ្នាំ ២០២០ ។

* 2 ស្តង់ដារអប់រំភាសាជប៉ុន JF បែងចែកភាសាជប៉ុនជា ៦ កម្រិតគឺពី A1 ដល់ C2 ដែលស្របតាមការបែងចែក
 កម្រិតភាសាបរទេសរបស់ក្រុមប្រឹក្សាអឺរ៉ុប CEFR ដែរ។

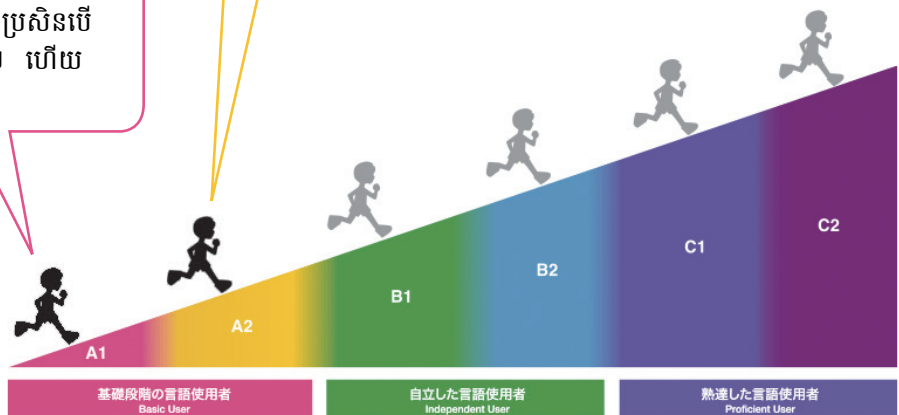
កម្រិត A1

- អ្នកអាចយល់និងអាចប្រើសំនួរឃ្លាតមួយ
 លម្អិតគ្រឹះដែលគេប្រើប្រចាំថ្ងៃបាន។
- អ្នកអាចសួរនិងឆ្លើយនូវសំណួរអំពីព័ត៌មាន
 ផ្ទាល់ខ្លួនដូចជា របស់កម្មសិទ្ធិ
 មនុស្សដែលស្គាល់ កន្លែងរស់នៅនិង
 អាចណែនាំអំពីខ្លួនឯងនិងអ្នកដទៃបាន។
- អ្នកអាចធ្វើការសន្ទនាងាយៗ បានប្រសិនបើ
 ដៃគូសន្ទនារបស់អ្នកនិយាយយឺតៗ ហើយ
 ច្បាស់ៗ មកអ្នក។

កម្រិត A2

- អ្នកអាចយល់នូវសំនួរវាហារសព្ទ និងប្រយោគដែលគេប្រើជាញឹកញាប់
 ពេលទំនាក់ទំនងគ្នាពីព័ត៌មានផ្ទាល់ខ្លួន និងគ្រួសារ ការដើរទិញអីវ៉ាន់
 អ្នកជិតខាង និងការងារជាដើម។
- អ្នកអាចឆ្លើយតបបានទៅនឹងការផ្លាស់ប្តូរព័ត៌មានស្តីពីបញ្ហាប្រចាំថ្ងៃដែល
 អ្នកដឹងប្រសិនបើបញ្ហានោះស្ថិតក្នុងកម្រិតងាយ។
- អ្នកអាចពន្យល់ដោយប្រើពាក្យងាយៗ ពីខ្លួនឯង ពីស្ថានភាពជុំវិញខ្លួន
 និងរឿងរ៉ាវសំខាន់ផ្សេងៗ។

សៀវភៅណែនាំសម្រាប់
 អ្នកប្រើប្រាស់ស្តង់ដារអប់រំ
 ភាសាជប៉ុន JF [បោះពុម្ពថ្មី] ។



■ អ្វីៗ មានមូលដ្ឋានពី "ភាសាជប៉ុនសម្រាប់ជីវភាពរស់នៅ JF Can-do"

មូលនិធិជប៉ុន បានធ្វើការប្រកាសពី "ភាសាជប៉ុនសម្រាប់ជីវភាពរស់នៅក្រោមទម្រង់ Can-do របស់ JF" នៅឆ្នាំ២០១៩។ នេះជាការណែនាំពីជំនាញភាសាជប៉ុនកម្រិតមូលដ្ឋានគ្រឹះក្នុងការទំនាក់ទំនងក្រោមទម្រង់ Can do សម្រាប់ជនបរទេសដែលភាសាជប៉ុនមិនមែនជាភាសាកំណើតត្រូវការជាចាំបាច់ពេលទៅរស់នៅ និងធ្វើការនៅប្រទេសជប៉ុនតាមប្រព័ន្ធ "សិក្សាកាមជំនាញពិសេស" ។ ល។ ដោយសារសៀវភៅអ្វីៗ បានកំណត់គោលការណ៍សិក្សាផ្នែកលើ ភាសាជប៉ុនក្នុងជីវភាពរស់នៅក្រោមទម្រង់ Can-do របស់ JF ពេលអ្នកសិក្សាជាមួយសៀវភៅនេះរួចអ្នកនឹងអាចទទួលបាននូវជំនាញទំនាក់ទំនងជាមូលដ្ឋានចាំបាច់សម្រាប់ការរស់នៅក្នុងប្រទេសជប៉ុន។ ដូចនេះសៀវភៅនេះត្រូវបានគេប្រើប្រាស់ដើម្បីត្រៀមប្រឡង តេស្តមូលដ្ឋានគ្រឹះភាសាជប៉ុនរបស់មូលនិធិជប៉ុន (JFT-Basic) ដែលជាតេស្តសម្រាប់វាស់ស្ទង់សមត្ថភាពភាសាជប៉ុនដែលចាំបាច់ មុនពេលពួកគេមកដល់ប្រទេសជប៉ុន។

■ ក្នុង អ្វីៗ មានឯកសារសិក្សា និងឯកសារស្តាប់ដ៏សម្បូរបែប ហើយអ្នកអាចសិក្សាភាសាជប៉ុនដោយអនុវត្តតាមស្ថានភាពជាក់ស្តែង

សៀវភៅអ្វីៗ សង្កត់ធ្ងន់ទៅលើការអនុវត្តស្តាប់។ ដើម្បីអាចប្រើប្រាស់ភាសាជប៉ុនក្នុងស្ថានភាពជាក់ស្តែងបាន ការស្តាប់ ភាសាជប៉ុនឱ្យបានច្រើន គឺសំខាន់ខ្លាំងណាស់។ ដូចនេះ អ្វីៗ បានរៀបចំនូវឯកសារស្តាប់ជាច្រើន។ ម្យ៉ាងវិញទៀតខ្លឹមសារឯកសារដែលត្រូវបានប្រើសម្រាប់ការអាន និងការសរសេរ គឺជាខ្លឹមសារដែលត្រូវបានប្រើនៅក្នុងជីវភាពរស់នៅរបស់ជប៉ុនពិតៗ ដូចនេះអ្នកអាចអនុវត្តភាសាជប៉ុនដែលដូចនឹងភាសាជប៉ុនក្នុងស្ថានភាពពិតៗ នៅប្រទេសជប៉ុន។ តាមរយៈចំណុចខាងលើអ្នកអាចរៀនភាសាជប៉ុនដោយការអនុវត្តជាក់ស្តែងហើយអាចប្រើប្រាស់បានភ្លាមៗ។

■ អ្វីៗមានប្រធានបទផ្សេងៗដែលមានទំនាក់ទំនងយ៉ាងជិតស្និទ្ធទៅនឹងជីវិតរស់នៅប្រចាំថ្ងៃ

សៀវភៅអ្វីៗ ត្រូវបានរៀបរៀងឡើងដោយផ្អែកទៅតាមការបែងចែកជាប្រធានបទ។ មេរៀននីមួយៗ មានលើកយកនូវប្រធានបទផ្សេងៗ ទាក់ទងនឹងជីវិតរស់នៅប្រទេសជប៉ុន។ ក្រៅពីការរៀនភាសាជប៉ុនយើងបានលើកយកបញ្ហាផ្សេងៗ ដែលទាក់ទងនឹងជីវភាពរស់នៅប្រចាំថ្ងៃ និងបរិបទនៅក្នុងប្រទេសជប៉ុនដើម្បីអោយអ្នកទទួលបានបទពិសោធន៍ពីជីវិត និងវប្បធម៌ជប៉ុន។ ម្យ៉ាងទៀតផ្នែកដែលមានប្រយោជន៍សម្រាប់ជីវភាពរស់នៅប្រទេសជប៉ុនក៏មានដែរ។

■ ក្នុង អ្វីៗ ក៏មានការសិក្សាផ្នែកវេយ្យាករណ៍និងអក្សរកាន់ជិផងដែរ

គោលបំណងនៃសៀវភៅនេះគឺ ដើម្បីឱ្យអ្នកអាចប្រើភាសាជប៉ុនក្នុងការទំនាក់ទំនងក្នុងជីវភាពរស់នៅជាក់ស្តែងប្រចាំថ្ងៃបាន ដូចនេះការសិក្សាវេយ្យាករណ៍ ពាក្យ និងអក្សរកាន់ជិ មិនមែនជាគោលដៅចម្បងរបស់សៀវភៅនេះទេ។ យ៉ាងណាមិញ ដើម្បីទទួលបានសមត្ថភាព Can-do អ្នកត្រូវសិក្សានូវផ្នែកទាំងនេះ។ វេយ្យាករណ៍ ពាក្យ និងអក្សរកាន់ជិជាច្រើនដែលត្រូវបានប្រើនៅក្នុងសៀវភៅបង្រៀនភាសាជប៉ុនកម្រិតដំបូងទូទៅក៏មានបញ្ចូលក្នុងសៀវភៅ អ្វីៗ នេះផងដែរ។

■ អ្នកអាចទាញយកពីគេហទំព័រដោយសេរី

សៀវភៅអ្វីៗ ត្រូវបានដាក់នៅលើគេហទំព័រឱ្យប្រើប្រាស់ ដូចនេះអ្នកអាចទាញយកសៀវភៅនេះបានដោយសេរីពីគ្រប់ទីកន្លែងនៅលើពិភពលោក។ សៀវភៅនេះត្រូវបានដាក់ជាឯកសារ PDF ដូចនេះអ្នកអាចបោះពុម្ពវាចេញដើម្បីប្រើ ឬរក្សាទុកក្នុងចេប៊ូត ឬស្ថិតិហ្វូនរបស់អ្នកដើម្បីមើល។ ឯកសារស្តាប់អ្នកអាចទាញយកពីគេហទំព័រហើយស្តាប់ ឬអាចស្តាប់ក្នុងគេហទំព័រផ្ទាល់ដោយមិនដោនឡូក៏បានដែរ។

■ សៀវភៅអ្វីៗ មានទំនាក់ទំនងជាមួយនឹងសៀវភៅ Marugoto

ប្រធានបទរបស់សៀវភៅអ្វីៗ និងវេយ្យាករណ៍ដែលមាននៅក្នុងមេរៀននីមួយៗ គឺទាក់ទងយ៉ាងស្អិតរមួតជាមួយ "ម៉ារីហ្គុតុ ភាសានិងវប្បធម៌ជប៉ុន" ដែលជាសៀវភៅសិក្សាភាសាជប៉ុនសម្រាប់អ្នកសិក្សានៅក្រៅប្រទេសដែលបង្កើតដោយមូលនិធិជប៉ុន។ ដូចនេះអ្នកអាចប្រើសៀវភៅអ្វីៗ និងសៀវភៅម៉ារីហ្គុតុ ជាមួយគ្នាបាន។ អ្នកអាចប្រើផ្នែកខ្លះនៃសៀវភៅម៉ារីហ្គុតុ ដើម្បីជំនួសដល់ការសិក្សាសៀវភៅអ្វីៗបាន ឬប្រើប្រាស់គេហទំព័ររបស់ ម៉ារីហ្គុតុ ដូចជា Marugoto+ (Marugoto Plus) ក្នុងការសិក្សាសៀវភៅអ្វីៗបានដូចគ្នា។

■ សៀវភៅនេះមានគោលបំណងផ្សារភ្ជាប់មនុស្សតាមរយៈការប្រាស្រ័យទាក់ទងគ្នា និងការយល់ដឹងអំពីវប្បធម៌ទៅវិញទៅមក។

គោលបំណងរួមនៃការសិក្សាសៀវភៅអ្វីៗគឺ "ការយោគយល់គ្នាទៅវិញទៅមក" រវាងមនុស្សនិងមនុស្ស។នេះក៏ជាទស្សនៈមូលដ្ឋាននៃស្នងដារអប់រំភាសាជប៉ុនរបស់ JF ដែលជាមូលដ្ឋាននៃសៀវភៅអ្វីៗផងដែរ។ សម្រាប់អ្នកដែលចាប់ផ្តើមជីវិតថ្មីនៅប្រទេសជប៉ុនជាពិសេសសម្រាប់អ្នកដែលរស់នៅប្រទេសជប៉ុនទាំងអស់អាចផ្សារភ្ជាប់គ្នាតាមរយៈការយោគយល់គ្នាទៅវិញទៅមក ការស្តាប់គ្នា ការបង្ហាញពីខ្លួនឯងទៅវិញទៅមក ការផ្លាស់ប្តូរពីវប្បធម៌ និងការទំនាក់ទំនងជាភាសាជប៉ុន បន្ទាប់ពីបានប្រើប្រាស់សៀវភៅអ្វីៗហើយ ។

រចនាសម្ព័ន្ធនៃឯកសារបង្រៀន

អ្វីៗមាន៣ផ្នែកគឺភាគដំបូង (A1) * ភាគ១ (A2) និងភាគ២ (A2) ។ ឯកសារបង្រៀននីមួយៗមានដូចខាងក្រោម។

* ភាគដំបូងនឹងត្រូវចេញផ្សាយនៅរដូវស្លឹកឈើជ្រុះឆ្នាំ ២០២០ ។

សៀវភៅច្បាប់ដើម (PDF)

គម្រប				
សារទៅកាន់អ្នកប្រើប្រាស់ (ជប៉ុន / អង់គ្លេស)		របៀបប្រើសៀវភៅនេះ (ជប៉ុន / អង់គ្លេស)		
តារាងមាតិកា (ជប៉ុន / អង់គ្លេស)				
មេរៀនទី ១ ដល់ ១៨				
លំហាត់អនុវត្ត	អត្ថបទជំនួយ ការស្តាប់	អក្សរកាន់ជិ	កំណត់ សម្គាល់ វេយ្យាករណ៍	គន្លឹះនៃ ជីវភាព រស់នៅ ប្រទេស ជប៉ុន
ការត្រួតពិនិត្យ Can-do				
ព័ត៌មានបោះពុម្ពផ្សាយ				

ឯកសារស្តាប់ (MP3)

មេរៀនទី ១ ដល់ ១៨

ឯកសារបន្ថែម*

ចម្លើយ	តារាងពាក្យ	វិធីសាស្ត្រក្នុងការបង្រៀន
ផ្សេងៗ		

*ឯកសារបន្ថែមដែលនឹងត្រូវចេញផ្សាយជាបន្តបន្ទាប់។

1 រចនាសម្ព័ន្ធតាមមេរៀននីមួយៗ

ភាគដំបូងភាគ១និងភាគ២តាមកម្រិតនីមួយៗមានប្រធានបទចំនួន៩ដែលត្រូវបានគេបែងចែកចេញជា១៨មេរៀន។ ពេលវេលាដែលអ្នកត្រូវចំណាយក្នុងការបង្រៀនមេរៀនមួយគឺពី១៥០ទៅ១៨០នាទី។ ចំនួននៃលំហាត់អនុវត្តដែលមានក្នុងមេរៀនមានភាពខុសៗគ្នាទៅតាមមេរៀននីមួយៗ ដូចនេះសូមធ្វើការកែសម្រួលចំនួនម៉ោងសិក្សាទៅតាមនោះ។

រចនាសម្ព័ន្ធតាមមេរៀននីមួយៗមានតាមលំដាប់ដូចខាងក្រោមនេះ៖

- ប្រធានបទនិងចំណងជើងមេរៀន
- សំណួរណែនាំ

សំណួរទាំងនេះគឺដើម្បីឱ្យសិស្សធ្វើការសាកល្បងគិតពិចារណាពីប្រធានបទដែលនឹងត្រូវបានលើកឡើងនៅក្នុងមេរៀន។ ចូរឱ្យសិស្សនិយាយពីបទពិសោធន៍ផ្ទាល់ខ្លួនរបស់គេដែលទាក់ទងនឹងប្រធានបទមេរៀន។
- លំហាត់អនុវត្ត


លំហាត់អនុវត្ត ជាផ្នែកសំខាន់មួយនៃសៀវភៅសិក្សានេះដើម្បីឱ្យសិស្សសម្រេចបាននូវសមត្ថភាព Can-do។ ក្នុងមេរៀននីមួយៗ មានលំហាត់អនុវត្តចំនួនពី ៣ដល់៦។ តាមរយៈការអនុវត្តលំហាត់អនុវត្តទាំងនេះ អ្នកនឹងអាចប្រើប្រាស់ភាសាជប៉ុនរបស់អ្នកបានក្នុងស្ថានភាពជាក់ស្តែង។
- អត្ថបទជំនួយក្នុងការស្តាប់
- អក្សរកាន់ជិ

ក្នុងផ្នែកនេះអ្នកនឹងរៀនអក្សរ កាន់ជិ នៃពាក្យដែលមានក្នុងមេរៀន។
- កំណត់សម្គាល់វេយ្យាករណ៍

ក្នុងផ្នែកនេះមានការការពន្យល់អំពីវេយ្យាករណ៍ និងទម្រង់ប្រយោគដែលមានក្នុងមេរៀននីមួយៗ ។
- គន្លឹះនៃជីវភាពរស់នៅក្នុងប្រទេសជប៉ុន


ក្នុងនេះមានការពន្យល់អំពីវប្បធម៌ជប៉ុននិងរឿងរ៉ាវទាក់ទងនឹងប្រទេសជប៉ុនដែលចេញនៅក្នុងលំហាត់មេរៀន។

ចំណងជើងមេរៀននិងប្រធានបទ




សំណួរណែនាំ

អក្សរកាន់ជិ



អត្ថបទជំនួយការស្តាប់

គន្លឹះសម្រាប់ជីវភាពរស់នៅប្រទេសជប៉ុន



កំណត់សម្គាល់វេយ្យាករណ៍

សម្មតាមប្រឡងចំណុច





អត្ថបទជំនួយការស្តាប់

កំណត់សម្គាល់វេយ្យាករណ៍

2 ខ្លឹមសារនៃលំហាត់អនុវត្ត

(១) ប្រភេទ និងគោលដៅនៃសកម្មភាព

នៅក្នុងមេរៀននីមួយៗ មានលំហាត់អនុវត្ត ៤ប្រភេទ គឺ និយាយ ស្តាប់ អាន និងសរសេរ។ ក្នុងលំហាត់អនុវត្តនីមួយៗ គឺវាមានលក្ខណៈឯករាជ្យ ប៉ុន្តែវាក៏មានទំនាក់ទំនងគ្នាក្នុងមេរៀននោះផងដែរ។ ចំនួន និងប្រភេទនៃលំហាត់អនុវត្តគឺខុសៗ គ្នាទៅតាមមេរៀន ហើយលំហាត់អនុវត្តការនិយាយ គឺមានច្រើន។ គោលដៅជារួមនៃសកម្មភាពទាំង ៤ គឺមានជាបន្តបន្ទាប់នេះ៖

	ការនិយាយ	មានគោលដៅឱ្យអ្នកអាចសួរនឹងឆ្លើយទៅនឹងសំណួរក្នុងស្ថានភាពទូទៅ និងធ្វើការពន្យល់អំពីរឿងរ៉ាវផ្ទាល់ខ្លួន ឬអំពីអ្វីមួយដែលអ្នកបានដឹង។
	ការស្តាប់	មានគោលដៅឱ្យអ្នកអាចស្តាប់យល់នូវខ្លឹមសារសំខាន់ៗ ក្នុងការសន្ទនាប្រចាំថ្ងៃ ស្តាប់យល់នូវព័ត៌មានសំខាន់ៗ ដូចជាការប្រកាសជូនដំណឹងជាសាធារណៈ ឬព័ត៌មានទូទៅជាដើម។
	ការអាន	មានគោលដៅឱ្យអ្នកអាចអានយល់ពីខ្លឹមសារព័ត៌មានដែលអ្នកនឹងត្រូវជួបប្រទះក្នុងជីវភាពប្រចាំថ្ងៃដូចជាសេចក្តីជូនដំណឹងទូទៅ ការណែនាំដែលមានលក្ខណៈសាធារណៈតារាងបញ្ជីមុខម្ហូបក្នុងភោជនីយដ្ឋាននិងខិត្តប័ណ្ណដែលសរសេរជាភាសាជប៉ុនងាយៗសម្រាប់ជនបរទេសជាដើម។
	ការសរសេរ	មានគោលដៅឱ្យអ្នកអាចបំពេញបែបបទដែលចាំបាច់ក្នុងការរស់នៅប្រចាំថ្ងៃ ធ្វើសារទៅនរណាម្នាក់ សរសេរពីរឿងរ៉ាវងាយៗ ដែលខ្លួនបានដឹងនៅលើបណ្តាញសង្គមជាដើម។

(២) លំហាត់នៃលំហាត់អនុវត្តនីមួយៗ

លំហាត់អនុវត្តនីមួយៗ មានជំហានដូចខាងក្រោម៖

1 គោលដៅនៃ Can-do
ពិនិត្យមើល Can-do និងគោលបំណងនៃលំហាត់អនុវត្ត។

2 លំហាត់អនុវត្ត
អនុវត្តលំហាត់ និយាយ ស្តាប់ អាន និងសរសេរ។

3 ពិនិត្យមើល Can-do
ប្រើផ្នែក "ពិនិត្យមើល Can-do" ដែលមាននៅចុងបញ្ចប់នៃសៀវភៅ ដើម្បីវាយតម្លៃសមត្ថភាពរបស់ខ្លួន។ នៅក្នុងការពិនិត្យមើល Can-do នោះអ្នកអាចវាយតម្លៃខ្លួនឯងថា តើអាចទទួលបានសមត្ថភាព Can-do កម្រិតណាហើយអ្នកអាចសរសេរមតិយោបល់និងចំណាប់អារម្មណ៍របស់អ្នកចំពោះលំហាត់អនុវត្តនោះ និងអ្វីដែលអ្នកចង់អនុវត្តបន្ទាប់ពីនោះបាន។ អ្នកអាចធ្វើការត្រួតពិនិត្យមើល Can-do នៅចុងបញ្ចប់នៃលំហាត់នីមួយៗ ឬអ្នកអាចសរសេរវានៅពេលដែលអ្នករៀនមេរៀនចប់ក៏បាន។

Can-do チェック [いろいろ] 初級1 (A2)

Can-do	自己評価 (Self-evaluation)
1. お久しぶりです Can exchange greetings with a person you are meeting for the first time in a long time.	☆☆☆
2. ...	☆☆☆
3. ...	☆☆☆
4. ...	☆☆☆
5. ...	☆☆☆

初級1 Can-doチェック-1 ©The Japan Foundation

第1課 レストランで働いています I work in a restaurant.		評価 Self-evaluation
活動・Can-do Activities & Can-do		
1.  お久しぶりです Can-do+01 久しぶりに会った人とあいさつをすることができる。 Can exchange greetings with a person you are meeting for the first time in a long time.	☆☆☆	

(៣) លំនាំអនុវត្តលំហាត់ និយាយ ស្តាប់ អាន និង សរសេរ។



លំហាត់អនុវត្តការនិយាយ

1 ពិនិត្យមើលគោលដៅរបស់ Can-do

2 សិក្សាពាក្យ

សិក្សាពាក្យដែលចាំបាច់ក្នុងការអនុវត្តលំហាត់តាមលំដាប់ដោយខាងក្រោម (លំហាត់ខ្លះមាន ខ្លះមិនមាន)។

1. ស្តាប់បណ្តើរ មើលរូបបណ្តើរ ហើយពិនិត្យមើលអត្ថន័យ
2. ស្តាប់ហើយព្យាយាមថាតាម
គោលបំណងនៃលំហាត់ គឺការស្តាប់ការបញ្ចេញសំឡេង មិនមែនដើម្បីឱ្យចងចាំពាក្យទេ។
3. ស្តាប់ហើយជ្រើសរើសរូបភាព
ស្តាប់ហើយបញ្ជាក់ថា តើអ្នកអាចយល់អត្ថន័យពាក្យភ្លាមៗ ដែរឬទេ។ គោលបំណងគឺ ដើម្បីអាចភ្ជាប់អត្ថន័យទៅនឹងរូបភាព។

3 ស្តាប់ការសន្ទនាគំរូ

គោលដៅសំខាន់នៃលំហាត់នេះគឺអនុវត្តនិយាយ ប៉ុន្តែជាដំបូងអ្នកត្រូវស្តាប់ការសន្ទនាគំរូហើយយល់អត្ថន័យខ្លះៗជាមុនសិន។ អ្នកមិនចាំបាច់យល់លំអិតពីវេយ្យាករណ៍និងសំនួររោហសព្ទទេ។

តាមលំហាត់អនុវត្តរបស់ការសន្ទនាគំរូអ្នកនឹងជួបនូវលំហាត់ស្តាប់ការសន្ទនាខ្លីៗដែលមានប្រធានបទខុសគ្នានិងលំហាត់ស្តាប់ការសន្ទនាវែងដែលមានប្រធានបទតែមួយ។ សម្រាប់លំហាត់ស្តាប់ដែលវែងអត្ថបទសន្ទនានឹងមាននៅក្នុងទំព័រនោះស្រាប់ ហើយលំហាត់ស្តាប់ដែលខ្លី អត្ថបទសន្ទនានឹងមាននៅទំព័រក្រោយ។

- ករណីដែលមិនមានអត្ថបទសន្ទនា

 1. មុនពេលស្តាប់សូមបញ្ជាក់ថាតើគេនិយាយអំពីអ្វីហើយក្នុងស្ថានភាពបែបណា។
 2. ស្តាប់ការសន្ទនា។ ឆ្លើយសំណួរបណ្តើរ ស្វែងយល់អត្ថន័យដែលសំខាន់បណ្តើរ។
 3. បន្ទាប់ពីបញ្ជាក់អត្ថន័យនៃសំនួររោហសព្ទ និងពាក្យថ្មី នៅក្នុង □ ស្តាប់ម្តងទៀតហើយ អ្នកនឹងយល់នូវខ្លឹមសារអត្ថបទបានលំអិតបន្តិច។

- ករណីដែលមានអត្ថបទសន្ទនា

 1. មុនពេលស្តាប់ បញ្ជាក់ថាតើអ្នកណានិយាយជាមួយអ្នកណា នៅក្នុងស្ថានភាពបែបណា?
 2. ស្តាប់ដោយមិនមើលអត្ថបទសន្ទនា។ ឆ្លើយសំណួរបណ្តើរ ស្វែងយល់អត្ថន័យខ្លះៗ បណ្តើរ។
 3. ស្តាប់បណ្តើរមើលអត្ថបទបណ្តើរដើម្បីស្វែងយល់ខ្លឹមសារឱ្យបានច្បាស់ហើយ សូមបញ្ជាក់អត្ថន័យនៃពាក្យនិងសំនួររោហសព្ទ។

4 ពិនិត្យមើលទម្រង់

សិក្សានូវវេយ្យាករណ៍និងសំនួរឃ្លាដែលចាំបាច់ដើម្បីសម្រេចបានសមត្ថភាព Can-do ។

1. ផ្ដោតទៅលើវេយ្យាករណ៍និងសំនួរឃ្លា

ចន្លោះដែលមានគូរបន្ទាត់ខាងក្រោមក្នុងការសន្ទនាគំរូ ជាវេយ្យាករណ៍ឬសំនួរឃ្លានៃមេរៀនដែលអ្នកត្រូវសិក្សា។
 ចូរស្តាប់ហើយបំពេញពាក្យពីលើបន្ទាត់
 ដោយពិនិត្យមើលទម្រង់នៃពាក្យដែលអ្នកបានបំពេញ។

2. គិតអំពីអត្ថន័យ និងរបៀបប្រើប្រាស់នៃវេយ្យាករណ៍ និងសំនួរឃ្លានោះ

ចូរឆ្លើយសំណួរ **!** ហើយគិតពីរបៀបប្រើប្រាស់ និងអត្ថន័យនៃវេយ្យាករណ៍ និងសំនួរឃ្លា។ គ្រូមិនត្រូវពន្យល់វេយ្យាករណ៍មុនទេ។
 សិស្សត្រូវស្វែងរកគន្លឹះនៃវេយ្យាករណ៍របស់ភាសាជប៉ុនដោយខ្លួនឯង។
 → បន្ទាប់ពីនោះ សូមអានការពន្យល់ និងប្រយោគទាហរណ៍នៅក្នុងផ្នែកកំណត់សម្គាល់វេយ្យាករណ៍។

3. ពិនិត្យមើលទម្រង់ ហើយស្តាប់ការសន្ទនាគំរូម្តងទៀត ។

បញ្ជាក់ និងស្តាប់សន្ទនាគំរូម្តងទៀត ថាតើសំនួរវាហាសព្វ និងទម្រង់ប្រយោគដែលបានរៀននៅក្នុងមេរៀននេះត្រូវបានប្រើយ៉ាងដូចម្តេចនៅក្នុងឃ្លាសន្ទនា។

5 អនុវត្តការនិយាយ

នេះជាគោលដៅចំបងក្នុងលំហាត់និយាយ។ ចូរអនុវត្តបន្តិចម្តងៗ តាមលំដាប់លំដោយ។

1. ស្តាប់ការសន្ទនាគំរូ

ស្តាប់បណ្តើរ មើលការសន្ទនាគំរូបណ្តើរ។ ពិនិត្យលំហូរនៃការសន្ទនានិងសំនួរឃ្លា។

2. ស្តាប់ហើយថាតាមពីក្រោយឱ្យទាន់សំឡេង។

នេះជាលំហាត់ដើម្បីអនុវត្តការនិយាយឱ្យបានរលូន។ ដំបូងមើលអត្ថបទសន្ទនាគំរូបណ្តើរ ស្តាប់ហើយថាតាមពីក្រោយឱ្យទាន់សំឡេង។ ធ្វើដដែលៗប៉ុន្មានដងរួចមកជាចុងក្រោយ ស្តាប់ហើយនិយាយតាមឱ្យទាន់សំឡេងដោយមិនមើលអត្ថបទសន្ទនាគំរូ។

3. អនុវត្ត

បន្ទាប់ទៀតសូមអនុវត្ត ៤. និយាយដោយសេរី។ លំហាត់ខ្លះមានហើយខ្លះមិនមាន។ ប្តូរពាក្យនៅក្នុងសន្ទនា ហើយនិយាយដោយប្រើខ្លឹមសារនៅក្នុងសន្ទនាគំរូទី ③ ។

4. និយាយដោយសេរី

ចូរនិយាយដោយសេរីពីខ្លួនឯង ឬដើរតួសន្ទនា។ ហើយមិនត្រឹមតែដូរពាក្យនៅក្នុងសន្ទនាគំរូទេ អ្នកអាចនិយាយដោយសេរីនូវរឿងដែលចង់និយាយបាន។ អ្នកអាចប្រើវចនានុក្រម ឬទូរស័ព្ទដើម្បីស្វែងរកពាក្យបាន។

6 ពិនិត្យមើល Can-do

តើការស្តាប់ហើយថាតាមពីក្រោយឱ្យទាន់សំឡេង គឺជាអ្វី?

នេះជាលំហាត់ដើម្បីអនុវត្តការនិយាយឱ្យបានរលូន។ ដំបូងមើលអត្ថបទសន្ទនាគំរូ បណ្តើរ ស្តាប់ហើយថាតាមពីក្រោយឱ្យទាន់សំឡេង។ ធ្វើដដែលៗប៉ុន្មានដងរួចមកជាចុងក្រោយ ស្តាប់ហើយនិយាយតាម ឱ្យទាន់សំឡេងដោយមិនមើលអត្ថបទសន្ទនាគំរូ។



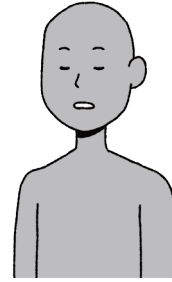
おんがくをきくことです。

おんがくをきくことです。

あと、ゲームをするのが好きです。

あと、ゲームをするのが好きです。

ត្រឹមត្រូវ



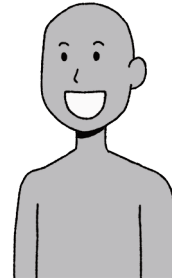
おんがくを
きくことです。

おんがくを
きくことです。

あと、ゲームを
するの好きです。

あと、ゲームを
するの好きです。

មិនត្រឹមត្រូវ





អនុវត្តលំហាត់ស្តាប់

ដំណើរការនៃលំហាត់ស្តាប់ គឺដូចទៅនឹងលំហាត់និយាយដែរ ប៉ុន្តែគោលបំណង ក្នុងការសម្រេចនូវសមត្ថភាព Can-do គឺអ្នកត្រូវស្តាប់ឱ្យយល់។ ពេលដែលអ្នក អាចស្តាប់បានចំណុចសំខាន់ហើយមានន័យថាអ្នកអាចឈានដល់គោលដៅហើយ។

1 ពិនិត្យគោលដៅ Can-do

2 សិក្សាពាក្យ

មុនពេលស្តាប់ ត្រូវសិក្សាពាក្យជាមុនសិន។ លំហាត់ខ្លះមានការ សិក្សាពាក្យតែលំហាត់ខ្លះមិនមានទេ។ លំនាំធ្វើលំហាត់គឺដូចទៅនឹងការអនុវត្តលំហាត់និយាយដែរ។

3 ការស្តាប់

នេះជាផ្នែកមួយសំខាន់ដើម្បីសម្រេចបាននូវគោលដៅ (Can-do)។

1. កំណត់ស្ថានភាព

មុនពេលស្តាប់ ចូរមើលរូបភាពបណ្តើរ ហើយមើលថា តើអ្នកនឹងត្រូវ ស្តាប់អ្វី ដើម្បីអ្វី ហើយក្នុងស្ថានភាពបែបណា។

2. យល់ពីលំដាប់លំដោយនៃអត្ថន័យ

ស្តាប់ហើយស្វែងរកចំណុចសំខាន់បណ្តើរ ឆ្លើយសំណួរបណ្តើរ។ ប្រភេទលំហាត់គឺខុសៗ គ្នាដែលមានដូចជា ជ្រើសរើសរូបភាពដែល ត្រូវនឹងអត្ថន័យ ជ្រើសរើសពាក្យគន្លឹះ កត់ចំណាំចំនុចសំខាន់ និងគូស សញ្ញាត្រូវខុសជាដើម។ អ្នកមិនចាំបាច់យល់អត្ថន័យនៃការស្តាប់ទាំង ស្រុងនោះទេ។ ប្រសិនបើអាចឆ្លើយនឹងសំណួរបាន គឺមានន័យថា អ្នកអាចទទួលបានសមត្ថភាព Can-do ហើយ។

3. មើលពាក្យហើយស្តាប់ម្តងទៀត

នេះជាលំហាត់បន្ថែម ដែលអាចធ្វើឱ្យអ្នកយល់អត្ថន័យលំអិតបាន។ បន្ទាប់ពីមើលអត្ថន័យពាក្យ និងសំនួរឃ្លាចហើយ សូមស្តាប់ម្តង ទៀត។ នៅក្នុងកម្រិតដំបូងនេះមានក៏មានពាក្យពិបាកមួយចំនួនដែរ ដូចនេះអ្នកមិនចាំបាច់ចងចាំពាក្យទាំងអស់ក៏បាន។

➔ ប្រសិនបើអ្នកចង់បញ្ជាក់នូវចំណុចដែលអ្នកស្តាប់មិនយល់ អ្នកអាច មើលអត្ថបទស្តាប់នៅខាងក្រោយបាន។

4 ពិនិត្យមើលទម្រង់

ចូរផ្តោតទៅលើវេយ្យាករណ៍ និងសំនួរឃ្លាពីលំហាត់ដែលអ្នកកំពុង ស្តាប់។ លំនាំអនុវត្តលំហាត់ស្តាប់ក៏ដូចទៅនឹងលំហាត់និយាយដែរ។ ប្រសិនបើមេរៀននោះមិនមានវេយ្យាករណ៍ ឬសំនួរឃ្លាថ្មីៗទេ ចំណុច នេះក៏មិនមានដែរ។

5 ពិនិត្យទៅលើ Can-do

▶ トピック 季節と天気 初級 1

3 冬はともとも寒くなります

2 冬はどの国にはどの季節が来りますか?

1 冬は桜の花が咲きます

2 ことばの準備

1. 聞いて、a) から選んでください。

2. 聞いて、a) から選んでください。

3. 聞いて、a) から選んでください。

初級1 L3-1 ©The Japan Foundation

▶ トピック 季節と天気 初級 1

3 日本で暮らす

1 日本の特徴を、a) から選んでください。

2 ことばを確認して、正しいものを選んでください。

初級1 L3-2 ©The Japan Foundation

▶ トピック 季節と天気 初級 1

4 形に注目

1 音声を聞いて、にことばを書き込んでください。

2 形に注目して、音声を聞いてください。

初級1 L3-3 ©The Japan Foundation



អនុវត្តលំហាត់អាន

1 ការបញ្ជាក់ Can-do

2 អនុវត្តការអាន

នេះជាផ្នែកសំខាន់ដើម្បីឈានដល់គោលដៅរបស់ Can-do។

1. កំណត់ស្ថានភាព
មុនពេលអាន ចូរពិនិត្យមើលថាតើអ្នកនឹងត្រូវអានពីអ្វី ដើម្បីអ្វី ហើយក្នុងស្ថានភាពបែបណា។
2. ស្វែងយល់ចំណុចសំខាន់បណ្តើរ ឆ្លើយនឹងសំណួរបណ្តើរ។
ដំបូងអ្នកត្រូវយល់ថា តើគេសរសេរអំពីអ្វីឬព័ត៌មានសំខាន់មានសរសេរនៅកន្លែងណាជាដើម បន្ទាប់មកអានឱ្យយល់ព័ត៌មានលំអិត។ អ្នកមិនចាំបាច់យល់ទាំងអស់ក៏បានដែរគ្រាន់តែអាចឆ្លើយទៅនឹងសំណួរបាន គឺបានន័យថាអ្នកអាចសម្រេច Can-do បានហើយ។ ក្នុងជីវភាពប្រចាំថ្ងៃជាក់ស្តែងនៅប្រទេសជប៉ុន នៅលើអក្សរកាន់ជិមិនមានដាក់អក្សរហ៊ីរ៉ាហ្គាណាសម្រាប់អានទេ។

ក្នុងសៀវភៅនេះក៏មិនមានអក្សរហ៊ីរ៉ាហ្គាណាសម្រាប់អានដូចក្នុងស្ថានភាពជាក់ស្តែងប្រចាំថ្ងៃដែរ ដូចនេះអ្នកត្រូវព្យាយាមអនុវត្តឱ្យដូចក្នុងជីវភាពប្រចាំថ្ងៃក្នុងប្រទេសជប៉ុនដោយព្យាយាមអានបណ្តើរ សាកទាយនិយមន័យពាក្យបណ្តើរ ហើយព្យាយាមកាត់ន័យយល់តាមរយៈ ការមើលរូបថត ឬរូបភាព ដោយមិនប្រើវចនានុក្រមដើម្បីផ្ទៀងផ្ទាត់នូវអត្ថន័យ។

🚩 たいせつ 大切なことば ពិនិត្យមើល ពាក្យសំខាន់ៗ

"ពាក្យសំខាន់ៗ" ជាពាក្យដែលមានប្រយោជន៍ក្នុងជីវភាពរស់នៅប្រចាំថ្ងៃនៅប្រទេសជប៉ុន ហើយអ្នកសិក្សាកម្រិតមធ្យមគួរតែចងចាំពាក្យទាំងនេះទុក។ ដំបូងចូរអានដោយខ្លួនឯងជាមុនសិនដោយកុំមើលវចនានុក្រម។ បន្ទាប់មកចូរស្វែងរកន័យរបស់ពាក្យ និងរបៀបអានរបស់ពាក្យកាន់ជិដែលអ្នកមិនយល់។ អ្នកនឹងអាចអាចបានច្រើនជាងមុនបន្ទាប់ពីព្យាយាមធ្វើបែបនេះរួច។

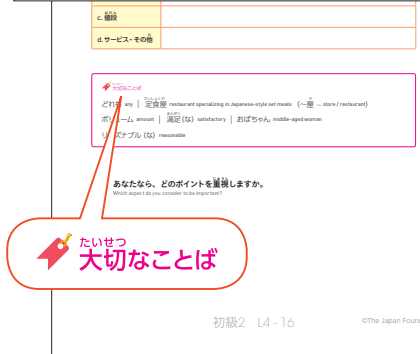
3. យល់ឱ្យកាន់តែស៊ីជម្រៅអំពីអត្ថន័យដែលបានអានរួច។

អ្នកអាចយល់ដឹងឱ្យបានស៊ីជម្រៅតាមរយៈការឆ្លើយសំណួរ និងយាយីបទពិសោធផ្ទាល់ខ្លួន និងប្រៀបធៀបខ្លឹមសារអ្វីដែលអ្នកកំពុងអានទៅនឹងប្រទេសរបស់អ្នកហើយពេលពិភាក្សា អ្នកអាចប្រើភាសាតាមប្រទេសរបស់អ្នកបាន។ ក្នុងលំហាត់ខ្លះមានជំហានបែបនេះ ប៉ុន្តែខ្លះមិនមានទេ។

3 ពិនិត្យមើលទម្រង់

វេយ្យាករណ៍និងសំនួរឃ្លាភាគដំបូងដែលអ្នកគួរយល់ដឹង ត្រូវបានគេស្រង់ចេញពីអត្ថបទដែលអ្នកបានអាន។ ជំហាននៃការអនុវត្តគឺដូចទៅនឹងការអនុវត្តលំហាត់និយាយនិងស្តាប់ដែរ ប៉ុន្តែក្នុងលំហាត់អានមិនមានឯកសារសំឡេងទេ។ អ្នកត្រូវមើលអត្ថបទបណ្តើរ បំពេញពាក្យក្នុងចន្លោះបណ្តើរ។ យោងទៅតាមសកម្មភាព ករណីខ្លះមាន ហើយករណីខ្លះក៏មិនមានដែរ។ ក្នុងលំហាត់ខ្លះមានជំហានបែបនេះ ប៉ុន្តែខ្លះមិនមានទេ។

4 ពិនិត្យមើល Can-do



3 ជំហានរបស់ផ្នែកផ្សេងៗ

អក្សរកាន់ជិ

ផ្នែកនេះជាផ្នែកអនុវត្តពាក្យកាន់ជិក្នុងកម្រិតបឋម។ គោលដៅគឺដើម្បីឱ្យអ្នកអាចមើលយល់អត្ថន័យកាន់ជិសំខាន់ៗនៅក្នុងជីវភាពប្រចាំថ្ងៃ ហើយក្នុងករណីចាំបាច់យើងអាចវាយបញ្ចូលអក្សរកាន់ជិតាមកុំព្យូទ័រនិងទូរស័ព្ទស្មាតហ្វូនជាដើម។

នៅក្នុងមេរៀននីមួយៗមានពាក្យជាអក្សរកាន់ជិប្រហែល១០ដែលមាននៅក្នុងលំហាត់។ ពាក្យជាអក្សរកាន់ជិដែលរៀននៅក្នុងភាគដំបូង ភាគ១ និងភាគ២ សរុបទាំងអស់មាន៤២៩អក្សរ មានដូចខាងក្រោមនេះ។

1 ពិនិត្យមើលរបៀបអានអក្សរកាន់ជិនិងអត្ថន័យរបស់វា

ចូរផ្ដោតទៅលើរបៀបនិងអត្ថន័យពាក្យកាន់ជិ។ អក្សរ កាន់ជិ ត្រូវបានគេសរសេរជាប្រភេទអក្សរច្រើនប្រភេទ។ ដូចនេះអ្នកនឹងអាចទម្លាប់ជាមួយការប្រើរបៀបនេះ។

2 អានពាក្យ កាន់ជិ នៅក្នុងឃ្លា

អានឃ្លាដែលមានអក្សរកាន់ជិថាតើអ្នកអាចអាន និងយល់បានដែរ ឬទេ។

3 វាយអក្សរ កាន់ជិ បញ្ចូល

សូមព្យាយាមសរសេរពាក្យ កាន់ជិ ទាំងនោះដោយប្រើទូរស័ព្ទ ក្តារចុចកុំព្យូទ័រ ឬចេកប្លេតជាដើម ថាតើអ្នកអាចវាយបញ្ចូលបានត្រឹមត្រូវដែរឬទេ។ ក្នុងការសិក្សាសៀវភៅនេះ សិស្សមិនចាំបាច់រៀនសរសេរអក្សរកាន់ជិ ដោយដៃនោះទេ ប៉ុន្តែអ្នកដែលមានចំណាប់អារម្មណ៍អាចរៀនខ្លួនឯងបាន។

កំណត់សម្គាល់វេយ្យាករណ៍

ក្នុងនេះមានការពន្យល់អំពីវេយ្យាករណ៍ដែលមានក្នុងមេរៀន។ វេយ្យាករណ៍ដែលត្រូវរៀនគឺយកពីផ្នែក"ពិនិត្យមើលទម្រង់"។ បើអ្នកអានការពន្យល់ក្នុងនេះ អ្នកនឹងអាចយល់ចម្លើយរបស់លំហាត់ផ្នែក ❶ ពិនិត្យមើលទម្រង់។

ក្នុងនេះមានការពន្យល់អំពីទម្រង់និងនិយមន័យរបស់វេយ្យាករណ៍ក្នុងមេរៀន

នីមួយៗ។ ម្យ៉ាងទៀត ក៏មានឃ្លាឧទាហរណ៍ និង ព័ត៌មានបន្ថែមអំពីរបៀបប្រើប្រាស់ផ្សេងៗ ដែលមិនមានក្នុងលំហាត់អនុវត្តផងដែរ។ លើសពីនេះទៀត មានតារាងបំបែកទម្រង់ តារាងប្រៀបធៀប និងតារាងឃ្លាដែលស្រដៀងគ្នាដែលចាំបាច់សម្រាប់ការសិក្សារបស់អ្នក។

នៅក្នុងថ្នាក់រៀន សិស្សត្រូវគិតដោយខ្លួនឯងអំពីការប្រើប្រាស់វេយ្យាករណ៍ និងសំនួរឃ្លាតាមរយៈចំណុចពិនិត្យមើលទម្រង់។ សិស្សអាចអានការពន្យល់នៅក្នុងផ្នែកនេះ ហើយត្រូវអាចប្រើប្រាស់ផ្នែកនេះដើម្បីពន្យល់សិស្សផងដែរ។ ម្យ៉ាងវិញទៀតសិស្សអាចមើលត្រួសៗ ពេលរៀនក្នុងថ្នាក់ ហើយត្រូវអាចឱ្យសិស្សអានការពន្យល់ដូចជាកិច្ចការផ្ទះ។

ការសិក្សាវេយ្យាករណ៍ក្នុងសៀវភៅសិក្សានេះមិនមែនជាគោលដៅចំបងទេ។ ប្រសិនបើចាំបាច់ក្នុងការសិក្សា សូមប្រើឯកសារបន្ថែមដូចជាសៀវភៅ រឺកែ របស់ ម៉ារីហ្គុត (សៀវភៅសិក្សាសម្រាប់សមត្ថភាពទំនាក់ទំនង) ជាដើម។ ប៉ុន្តែសូមកុំធ្វើការអនុវត្តវេយ្យាករណ៍ឱ្យឃ្លាតឆ្ងាយពីគោលដៅរបស់ Can-do។

ការពន្យល់នៅក្នុងផ្នែកនេះត្រូវបានរៀបរៀងជាភាសាអង់គ្លេសឬភាសាតាមប្រទេសនីមួយៗ។ ភាសាជប៉ុនគឺជាឯកសារសម្រាប់ជំនួយដល់គ្រូ ដូចនេះអ្នកសិក្សាមិនចាំបាច់អាននិងយល់ភាសាជប៉ុននៅផ្នែកនេះទេ។

*ការបោះពុម្ពផ្សាយជាភាសាផ្សេងៗក្រៅពីភាសាអង់គ្លេសនឹងត្រូវបានរៀបរៀងជាបន្តបន្ទាប់។

នៅក្នុងផ្នែកនេះនៅពេលបង្ហាញអំពីថ្នាក់ពាក្យគេប្រើនិមិត្តសញ្ញាដូចខាងក្រោម។

N នាម
 ナA គុណនាមナ
 イA គុណនាមイ
 V កិរិយាសព្ទ
 S ឃ្លា

「V-る」 មានន័យថាទម្រង់វចនានុក្រមរបស់កិរិយាសព្ទ រួមបញ្ចូលទាំងកិរិយាសព្ទដែលមិនបញ្ចប់ដោយ「る」 ផងដែរដូចជា 「読む」 「行く」 ជាដើម។

■ គន្លឹះសម្រាប់ជីវភាពរស់នៅក្នុងប្រទេសជប៉ុន

នៅក្នុងផ្នែកនេះមានចងក្រងនូវចំណេះដឹងដែលមានប្រយោជន៍ក្នុងការរស់នៅប្រចាំថ្ងៃក្នុងប្រទេសជប៉ុន។ អ្នកអាចរីករាយជាមួយនឹងការអានអត្ថបទអំពីជីវភាពរស់នៅក្នុងប្រទេសជប៉ុននិងពីវប្បធម៌ជប៉ុនដែលអមដោយរូបថតនិងរូបភាពដ៏សំបូររំបែបជាច្រើន។

ប្រធានបទនីមួយៗក្នុងផ្នែកនេះត្រូវបានគេដកស្រង់ចេញពីខ្លឹមសារមេរៀនជាពិសេសគេបានលើកយកចំណុចសំខាន់ៗជាច្រើនសម្រាប់អ្នកសិក្សាដែលមិនធ្លាប់បានទៅប្រទេសជប៉ុន។ លើសពីនេះទៀតឯកសារភ្ជាប់ដែលមានបញ្ចូលក្នុងផ្នែកនេះក៏មានសារៈប្រយោជន៍នៅពេលអ្នកទៅរស់នៅក្នុងប្រទេសជប៉ុនផងដែរ។ បន្ទាប់ពីការធ្វើលំហាត់អនុវត្តហើយ អ្នកអាចអានផ្នែកនេះដោយខ្លួនឯងឬនៅក្នុងថ្នាក់រៀន។ ប្រសិនបើអ្នកមានចម្ងល់អ្វីមួយពីខ្លឹមសារណាមួយក្នុងលំហាត់សន្ទនា សូមចូលមើលក្នុងផ្នែកនេះ។

ដូចផ្នែក កំណត់សម្គាល់វេយ្យាករណ៍ ដែរផ្នែកនេះត្រូវបានរៀបរៀងឡើងជាភាសាអង់គ្លេសឬភាសាតាមប្រទេសនីមួយៗ។ ផ្នែកពន្យល់ជាភាសាជប៉ុនគឺសម្រាប់ឱ្យគ្រូប្រើប្រាស់ ដូចនេះសិស្សមិនចាំបាច់អាននិងយល់ផ្នែកពន្យល់ជាភាសាជប៉ុនទេ។

*ការបោះពុម្ពជាភាសាផ្សេងៗក្រៅពីភាសាអង់គ្លេសនឹងត្រូវបានរៀបចំជាបន្តបន្ទាប់។

